一般口演 | 1-08 電気生理学・不整脈

一般口演-16
QT延長症候群

座長:
立野 滋 (千葉県循環器病センター)
泉田 直己 (曙町クリニック)
Fri. Jul 17, 2015 10:00 AM - 10:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)
II-O-11～II-O-15
所属正式名称：立野滋(千葉県循環器病センター　小児科)、泉田直己(曙町クリニック)

[II-O-13]QT延長症候群における運動負荷による QT/HR slope

○高橋 一浩, 鍋島 泰典, 差波 新, 中矢代 真美 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター　小児循環器科)
Keywords:QT dynamics, provocative test, long QT type 3

【背景・目的】 QT延長症候群（ LQT）では、 QTダイナミクスが異常であることが報告されている。運動負荷による QTダイナミクスを検討する。【対象】遺伝子型が判明している未治療の QT延長症候群１５名（ LQT１型２名、２型２名、３型１０名、７型１名）、及び不整脈精査のため運動負荷を施行した基礎心疾患や QT延長を認めないコントロール群１５名の計３０名。【方法】運動負荷中の QT時間を自動計測した。運動負荷は、最大心拍数までの負荷中、およびそれ以降の負荷後回復期の２相に分けて解析した。 QT時間/心拍関係を線形単回帰して求めた傾き（ QT/HR slope）から QTダイナミクスを評価した。結果： QT/HR slopeは、 LQT群はコントロール群に比し有意に急峻であった ：全運動負荷, -2.05 ± 0.59 vs. -1.14 ± 0.26, p＜0.0001；運動負荷中（ Ex）、-2.11 ± 0.70 vs. -1.18 ± 0.31, p＜0.0001；回復期、-1.99 ± 0.50 vs. -1.12 ± 0.25, p＜0.0001。 QT/HR slopeは、 LQTサブタイプ（ LQT3 vs.non-LQT3）間で差がなかった。結語：運動負荷による QTダイナミクス評価により、 LQT群を鑑別できる可能性があり、遺伝子検査適応のスクリーニングに使用できると思われる。但し、この方法では、 LQTサブタイプを鑑別はできなかった。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery